

平成22年度予算が成立

同意された人事案件

・能登町固定資産評価審査委員会委員の選任について▽井高吉孝氏（上）を再任
 ・能登町教育委員会委員の任命について▽鶴野みどり氏（鶴川）を選任

可決した議案（38件）

能登町議会第1回定例会が3月9日に招集されました。会期を19日までの11日間と定め、平成22年度一般会計予算や平成21年度補正予算、条例改正などの町長提出議案40件が上程されました。

持木町長が平成22年度施政方針、議案の提案理由を述べたあと、12人が議案について質問しました。人事案件2件が同意された後、議案は各常任委員会に付託され審議されました。

最終日の採決では、委員長報告を受けて議案38件はすべて原案のとおり可決。12月議会からの継続審査を含む陳情2件が採択されました。追加された議案1件、議会提出議案1件も原案のとおり可決されました。

また、奥野清副議長の辞職に伴う副議長選挙が行われ、石井良明議員が当選しました。

《平成22年度予算14件》
 ・一般会計予算
 ・有線放送事業特別会計予算
 ・国民健康保険特別会計予算
 ・後期高齢者医療特別会計予算
 ・老人保健特別会計予算
 ・介護保険特別会計予算
 ・観光施設特別会計予算
 ・公共下水道事業特別会計予算
 ・農業集落排水事業特別会計予算
 ・漁業集落排水事業特別会計予算
 ・浄化槽整備推進事業特別会計予算
 ・簡易水道事業特別会計予算
 ・水道事業会計予算

《平成21年度補正予算7件》
 ・一般会計補正予算（第4号）
 ・歳入歳出それぞれ6億835万7千円を追加し、総額を159億5542万6千円とする
 ・有線放送事業特別会計補正予算（第4号）
 ・介護保険特別会計補正予算（第3号）
 ・観光施設特別会計補正予算（第2号）
 ・公共下水道事業特別会計補正予算（第4号）
 ・簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）
 ・病院事業会計補正予算（第3号）

・能登町組織条例の一部を改正する条例について▽事務分掌の見直しを行い14課を13課に改編
 ・能登町情報ネットワークセンター条例の一部を改正する条例について▽「有線放送運営委員会」を廃止し、運営についても「有線放送番組審議会」で審議
 ・能登町組織条例の一部を改正する条例について▽10月1日から給付対象を入院・通院共に中学校卒業までに拡大し、自動償還を実施
 ・能登町ハーモニーセンター設置条例の制定について▽旧奥能登ユースホステルを改修し、文

・病院事業会計予算
 ※平成22年度予算の詳細は、9ページから13ページの予算特集を参照してください。

《平成21年度補正予算7件》

・一般会計補正予算（第4号）
 △歳入歳出それぞれ6億835万7千円を追加し、総額を159億5542万6千円とする

・能登町社会教育委員設置条例の一部を改正する条例について▽生涯学習課、学校教育課を統合し、教育委員会事務局とする
 ・能登町立保育所条例の一部を改正する条例について▽神野保育所を統合し、8保育所から7保育所に改編
 ・能登町乳幼児及び児童医療費給付に関する条例の一部を改正する条例について▽10月1日から給付対象を入院・通院共に中学校卒業までに拡大し、自動償還を実施



化施設として利用可能とする
 ・能登町水道事業の設置に関する条例の一部を改正する条例について▽役員組織改編（水道課と下水道課を統合し上下水道課）に伴う改正
 ・新たに生じた土地の確認について▽能都庁舎前の宇出津湾内公有水面埋立地4773・22㎡に係る土地の確認
 ・字及び小字の区域の変更について▽同埋立地による区域変更
 ・辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について▽22年から24年までの総合整備計画
 ・辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について▽本木、中斉辺地の計画変更

・町道路線の認定について▽港湾事業で新設された越坂10号線を町道として認定
 ・町道路線の変更について
 ・町道路線の廃止について
 △宇出津8号線と宇出津84号線の間を町道に認定、84号線を廃止して8号線に統合する
 ・公の施設の指定管理者の指定について▽真脇ポーレポーレ、縄文真脇温泉浴場および真脇遺跡公園の指定管理者を（財）能登町ふれあい公社とする。指定期間は22年4月1日から一年間

・町道路線の認定について▽港湾事業で新設された越坂10号線を町道として認定
 ・町道路線の変更について
 ・町道路線の廃止について
 △宇出津8号線と宇出津84号線の間を町道に認定、84号線を廃止して8号線に統合する
 ・公の施設の指定管理者の指定について▽真脇ポーレポーレ、縄文真脇温泉浴場および真脇遺跡公園の指定管理者を（財）能登町ふれあい公社とする。指定期間は22年4月1日から一年間

・能登町組織条例の一部を改正する条例について▽事務分掌の見直しを行い14課を13課に改編
 ・能登町情報ネットワークセンター条例の一部を改正する条例について▽「有線放送運営委員会」を廃止し、運営についても「有線放送番組審議会」で審議
 ・能登町組織条例の一部を改正する条例について▽10月1日から給付対象を入院・通院共に中学校卒業までに拡大し、自動償還を実施
 ・能登町ハーモニーセンター設置条例の制定について▽旧奥能登ユースホステルを改修し、文

副議長に石井良明氏
 いしい・よしあき（59歳）
 平成4年3月、旧能都町議会議員に初当選。通算5期目。旧能都町で副議長、議会運営委員長などを歴任。18年11月から19年12月まで能登町議会総務常任委員長。瑞穂在住。

石川県知事選挙 谷本正憲氏が5選

任期満了に伴う石川県知事選挙が3月14日(日)に行われ、即日開票されました。能登町の投票率は前回は9.06ポイント上回る60.82%。期日前投票を行った人は3,441人でした。開票の結果は次のとおりです。

投票区	投票所	当日有権者数	投票者数	投票率%
第1	能都社会福祉会館	1,802	1,099	60.99
第2	宇出津小学校	1,746	1,040	59.56
第3	ひばり保育所	906	557	61.48
第4	三波公民館	304	195	64.14
第5	矢波地区集会所	286	198	69.23
第6	神野公民館	604	383	63.41
第7	鶴川公民館	1,076	647	60.13
第8	瑞穂公民館	703	429	61.02
第9	宮地生活改善センター	248	182	73.39
第10	柳田体育館	1,428	1,009	70.66
第11	小間生公民館	491	329	67.01
第12	上町地区生活改善センター	818	543	66.38
第13	岩井戸公民館	231	160	69.26
第14	当地地区多目的研修集会センター	236	150	63.56
第15	斉和多目的集会所	205	156	76.10
第16	内浦福祉センター	1,943	1,127	58.00
第17	上区集会場	255	176	69.02
第18	不動寺公民館	517	336	64.99
第19	秋吉公民館	342	209	61.11
第20	白丸コミュニティ施設	720	433	60.14
第21	能登勤労者プラザ	389	206	52.96
第22	小木地区活性化センター	1,954	950	48.62
第23	高倉保育所	1,046	557	53.25
第24	小浦地区集会所	207	154	74.40
計		18,457	11,225	60.82

＜能登町開票区結果＞

桑原 豊	無所属・新	2,338
米村照夫	無所属・新	215
木村吉伸	無所属・新	403
谷本正憲	無所属・現	8,139
無効投票数		130

40年、我が子を育てるよう のとキリシマツツジを 育て続けてきた—。



町花のとキリシマツツジを盆栽で支える

水木由一さん

みずき・よしいち (70) =柳田=

新宿御苑でキリシマ展

新宿御苑の一角に咲き誇った深紅の花を見て、水木由一さん(70)「柳田」は、ほっと胸をなで下ろした。

のとキリシマツツジ連絡協議会(宮本康一会長)とNPO法人のとキリシマツツジの郷(理事長)が3月2日から7日にかけて新宿御苑で開催した『能登に残る江戸の花々のとキリシマツツジ展』でのことだ。

6日にはシンポジウムも開催され、倉重祐二・新潟県立植物園副園長と小林伸雄・島根大学生物資源科学部教授が、のとキリシマツツジの歴史やDNA分析結果などの研究成果を発表した。また、連絡協議会とNPO法人が地元での保護活動などの取り組みを紹介した。

会場には促成開花させた盆栽6点のほか、写真や苗などが展示された。

ふる里柳田会が運営を支援

これまで、のとキリシマツツジは全国的にほとんど知られることがなかった。その花を首都圏でPRする絶好の機会に『ふ

盆栽の第一人者として

今回、新宿御苑で展示された盆栽は水木さんの所有だ。水木さんは、のとキリシマツツジの盆栽を40年にわたり手掛け、NPO法人の副理事長も務める愛好家の一人。昨年12月に新潟県立植物園に運ばれた盆栽は、専門家の手で開花時期の調整を行った。初日に4分咲き、最終日には見事に満開となった。

「自分が育てたのとキリシマが新宿御苑に展示されるとは夢にも思わなかった」と東京での1週間の振り返る。

水木さんは現在、約50鉢の盆栽を育てている。繊細で管理が難しいとされるキリシマツツジの盆栽をこれだけ管理している人は、全国的にも数少ないという。平成13年には宮内庁・常陸宮華子さまへ献上。能登空港や植物公園などで展示される盆栽の多くは、水木さんが手掛けたものだ。

「のとキリシマの管理の要は『水』。一鉢ごとに水分調整しなければならぬ。夏になれば水やりは毎日。二日と家を空けることができない」と話す。



新宿御苑インフォメーションセンターに展示され、多くの来場者を魅了したのとキリシマツツジ

る里柳田会』の会員たちも応援に駆けつけた。造園業を営む人が設営を手伝い、事務局の内平由美子さんら女性会員が受付業務などで会場運営を支援した。

期間中は約4200人が訪れ、能登半島を代表する花に魅了された。キリシマツツジのルートとされる鹿児島県霧島市からの視察者からは「開花時期に能登を訪れたい」という声も聞こえてきた。

能登半島はキリシマツツジの古木の群生地として日本一の規模を誇る。その魅力を伝え、能登に足を運んでもらうきっかけを作る一大イベントは、関係者の情熱と多くの協力を得て、成功裏に終わった。

さらに難しいのが、日程決められた展示会に合わせて花を咲かせること。常に気温に気を配り、ハウスから出すタイミングを計るが、奥さんと二人で庭先へ運ぶ仕事は重労働。腰を痛め、二度の手術を受けた。

それでも水木さんは盆栽にこだわる。「小さい中に巨木をイメージさせる盆栽は、1年1年風格が出てくる。自分の子どもを育てるような感じ」なのだ。「花が咲く期間は10日ほど。一年の355日は鉢の管理」と目を細める。

盆栽で培った技術は、庭木にも応用できる。昨年は能登産業技術専門校での講師を務め、挿し木、古木から根を出させる方法、鉢の植え替えなどを伝授した。「先輩から受け継いだ技術もあるが、自己流で開発した技術もある。この技を若い人に伝えたい」という思いは強い。

「宮本会長の情熱に引つ張られてここまで来た。まだやめるわけにはいかない」

能登が全国に誇るのとキリシマツツジ。その文化を守り、後世に伝えるため、水木さんは今も鉢植えに向かう。

バイオカ

チカラ

バイオマスの利活用①
ペレット製造施設の利用拡大事業

能登町バイオマスタウン構想（下記参照）に掲げられた利活用推進事業の一つが「ペレット製造施設の利用拡大事業」です。能登町内には現在、住民グループによるペレット燃料の製造施設が稼働しています。その代表を務める谷口文雄さんにお話を伺いました。



NORA バイオエコ能登代表
谷口文雄さん（当目）

場所：字神和住 6-28 (旧サイワ製作所)
事務局：字当目 28-1
☎ 76-1552 (夢一輪館・高市)
※施設見学の申し込みなど問い合わせは、事務局までご連絡ください。

「NORA バイオエコ能登発足の経緯は。発足当初、わたしたちは能登の山林や耕作放棄地に自生するカヤに着目しました。カヤは刈れば刈るほど勢いが出てきます。カヤを原料とするペレットができれば循環のサイクルができるのではと考えました。エンデバーファンド21の助成をいただき、平成20年にペレット製造機を購入しました。そして神和住の工場跡地にペレットを研究・製造する施設を開設することができました。苦労したことは。最初は何でもペレットになると思っていましたが、なかなか理想どおりにできませんでした。特に水分調整が難しく、形になるまで半年間は、試行錯誤を重ねました。現在の状況は。ストローやボイラーの燃料と

なる木質ペレットについては、品質的にも理想的なものができようになりました。今後は、カヤに米ぬかとおからをブレンドした飼料ペレットも試験的に生産します。子牛に食べさせて2年後、3年後どうなるかを地元生産者や石川県の協力を得てデータを出したいと考えています。今後の課題は。われわれ民間の力だけでは限界があります。バイオマスタウンを目指す町と協力しながら、ペレットの需要を拡大し、それに合わせて効率的な供給体制を整えなければなりません。能登には資源が100%あります。その資源を生かし、循環させ、若い人に働く場を提供したい。そのためには、ペレット製造をなんとしても軌道に乗せ、NORAを自立させることで、若い人につなげていきたいと考えています。

3月 ま々の出来事

能登9市町でマツを植林



▶協力しながらアカマツを植えるおおとり会のメンバー

▼参加者が見守る中、記念植樹を行う持木町長



「ほっと石川観光キャンペーン」の一環として、3月21日に遠島山公園でマツの植林が行われました。このキャンペーンは、能登の未来の観光地づくりを目指し、マツ林の復活と能登半島地震の復興を全国にアピールするため、能登9市町が一体となって行われました。持木町長は「遠島山公園は観光スポットであり、町民の憩いの場でもあります。皆さんでマツの成長を見守ってください」とあいさつし、記念植樹を行いました。今回植林されたマツは、松くい虫に強い品種として県が開発した「アカマツ」です。会場にはおおとり会のメンバーなど約40人が集まり、1畝ほどに育った30本のアカマツを手際よく植えていました。

金沢星稜大学「小木研究会」 大学生が小木活性化策を提案

小木の振興策を考える「小木研究会」は2月18日、小木地区活性化センターで開かれ、昨年9月に実施した住民への聞き取り調査を基に金沢星稜大学の学生が活性化策を提案しました。研究会には同大学経済学部長の吉川顕磨教授とゼミ生3人、小木地区の住民ら約20人が参加。学生たちは「イカの生き作りのメニュー化」や「観光客誘致のために旅行会社への企画持ち込み」「国・県へのインフラ整備要望」などを提案しました。

住民からは「学生の提案を生かすための核となる団体設立が必要ではないか」などの意見が上がりました。



聞き取り調査の結果と振興策を発表する学生たち

地元直売所での海洋深層水農産物販売を提案する下田さん



能登里山マイスター 2期生が過疎振興など研究発表

金沢大学「能登里山マイスター」養成プログラムの卒業課題演習成果報告会は、2月26日と27日に珠洲市の金沢大学能登学舎で開かれ、2期生15人がそれぞれ2年間取り組んできた研究成果を発表しました。

報告会では、表口典生さん＝笹川＝が本場ものという強い商品力を持つ奥能登在来野菜を大いに生かしていくべきと提案。佐野禎宣さん＝柳田＝は里山利活用によるビジネス展開について、下田智幸さん＝松波＝は海洋深層水農産物のブランド化についてスライドを使って説明しました。

能登町バイオマスタウン構想

第1次総合計画に掲げている「循環型社会の構築」や「新エネルギーの活用」を推進するため、能登町バイオマスタウン構想を策定しました。これは、平成21年7月に設立した能登町バイオマス推進協議会の委員の皆さんが検討した町内のバイオマス利活用方法をまとめ上げたもので、国のバイオマス・ニッポン総合戦略推進会議へ提出し、22年3月に能登町の構想書として公表されました。

能登町バイオマスタウン構想は、里山里海といった豊かな自然環境の保全や資源の活用を図っていくもので、ペレットの利用拡大や森林の資源活用、カヤ・牧草などの管理栽培を重点的に取り組み、バイオマスの普及啓発を推進して「地域による、地域のための、地域資源を活かした」循環型社会の構築や産業振興を目指しています。

いつまでも能登町の自然環境を守り、豊かな地域資源を次世代に引き継ぐため、町民の皆さんと一緒にバイオマスタウンの実現を推進していきます。



各家庭に配布された構想の概要

消防 女性防火の集い

初期消火と救急救命の知識を深めました

能登消防署 ☎ 62-0492

第5回能登町女性防火の集いが2月28日、柳田山村開発センターで開催され、町内の女性防火クラブ員64人が参加しました。

この集いは、地域ぐるみの自主防火体制の確立とクラブ員の防火思想の高揚、親ぶくを深めて災害のない安全で明るい町づくりを目的として毎年開催されています。

5回目となる今回は、消火器の取り扱い方法や、徒手による傷病者の搬送法、心肺蘇生法などが実施されました。参加したクラブ員は、消防職員の手ほどきを受けながら、初期消火や救急救命に対する知識を深めました。



心肺蘇生法を学ぶ女性防火クラブ員

向峠茂人さん(当目)に消防庁長官表彰

平成21年度消防功労者消防庁長官表彰式が3月5日、東京都港区虎ノ門ニッショーホールで行われ、能登町消防団副団長の向峠茂人さんが「永年勤続功労章」を受章しました。



税金 4月の納期

軽自動車税の納期限は、4月30日(金)です 納期限までに納付しましょう

税務課 ☎ 62-8505

ニュース 生涯学習振興大会

地域づくりはまちづくりにつながります

能登町生涯学習振興大会が2月28日、能都庁舎で開催され、日ごろから社会教育活動を行っている団体や公民館関係者など約120人が参加しました。式では社会教育功労者表彰と「私が町長だったら」作文表彰が行われ、最優秀の3人が発表しました。

記念講演では、アナウンサーの村松真貴子さんが「笑顔あふれる地域づくりのために」と題して講演。「子どもたち、お年寄り、障害のある人たちが安心して暮らせる町になるよう、声を出してほしい」と呼び掛けました。表彰された皆さんは次のとおりです。(敬称略)

〈能登町社会教育功労者表彰〉

高木泰憲(町文化協会)、山本好子(秋吉公民館)、松波ラジオ体操友の会(松波公民館)

〈「私が町長だったら」作文入賞者〉

最優秀賞 小浦郁恵(能都中2年)、権谷未奈(鶴川中1年)、宮前貴子(同1年)

優秀賞 南 緑香(柳田中3年)、新谷賢人(小木中2年)、町端賢哉(同2年)、藤井梨奈(能都中2年)、和田拓巳(同2年)



表彰者にインタビューをする村松真貴子さん

ニュース 地域福祉セミナー

共に生きる福祉のまちづくりを目指して

3月7日、能登町地域福祉セミナーが能都庁舎で開催され、約200人が参加しました。オープニングを飾った「琴名流百合根の会」による大正琴演奏の後、3団体の活動発表と雄谷良成さん(社)佛子園理事長)による福祉講演が行われました。



「体験を通して子どもたちは成長する」と松波中学校の活動を報告する上田辰美先生

【能登町役場】☎62-1000(代)

能都庁舎 (R)62-4506

総務課 ☎ 62-8510
企画財政課 ☎ 62-8503
監理課 ☎ 62-8504
税務課 ☎ 62-8505
収納対策室 ☎ 62-8506
環境対策課 ☎ 62-8507

町民課 ☎ 62-8500
能都サービス室 ☎ 62-8500
ふるさと振興課 ☎ 62-8532
海洋深層水対策室 ☎ 62-8533
会計課 ☎ 62-8509

柳田庁舎 (R)76-0039
広報情報推進課 ☎ 76-8301
農林水産課 ☎ 76-8302

柳田サービス室 ☎ 76-8300
農業委員会 ☎ 76-8303
建設課 ☎ 76-8304

内浦庁舎 (R)72-2108
健康福祉課
(児童保育) ☎ 72-2512
(医療介護) ☎ 72-2502
(福祉庶務) ☎ 72-2503

(健康推進) ☎ 72-2504
(包括支援) ☎ 72-2513
内浦サービス室 ☎ 72-2500
上下水道課 ☎ 72-2507
教育委員会事務局 ☎ 72-2509

議会庁舎 議会事務局 ☎ 76-8310

お知らせ 能登町ハーモニーセンター

文化・交流活動の拠点として利用ください

ふるさと振興課 ☎ 62-8532

遠島山公園内の旧奥能登ユースホステルを改修し、文化活動の拠点となる「能登町ハーモニーセンター」を設置しました。展示発表・創作会議など、皆さんの文化・交流活動の場としてご利用ください。

〈施設内容〉

創作室(9室)、ホール、1階大展示場、2階大展示場

〈開館時間〉9:00～17:00

〈申し込み先〉ふるさと振興課

募集 能登町奨学金

奨学金貸与を受ける生徒・学生を募集

教育委員会事務局 ☎ 72-2509

〈貸与区分〉高校生2万円(能登高校入学者は2万5千円の特枠制度あり)、短大・専修・高専2万5千円、大学(4年制)3万円

〈受付期間〉4月12日(月)～4月30日(金)

募集 町営住宅

町営住宅姫団地の入居者を募集します

建設課 ☎ 76-8304

〈募集期間〉4月1日(木)～4月15日(日)

〈対象住宅〉姫団地 1戸(2DK) 字姫3丁目36
家賃 月額25,000円

〈入居資格〉

- ①能登町に住所を有する人(予定者含む)
- ②住宅に困窮していることが明らかでない人
- ③町税などの滞納がない人
- ④収入基準 入居者の所得月額が158,000円超
- ⑤単身の人はご遠慮いただくことがあります

お知らせ 役場組織改編

上下水道課、教育委員会事務局を新設

4月1日から、水道課と下水道課を統合し「上下水道課」に、学校教育課と生涯学習課を統合し「教育委員会事務局」に変更となりました。

- ・上下水道課(内浦庁舎2階) ☎ 72-2507
- ・教育委員会事務局(内浦庁舎4階) ☎ 72-2509

町民課を能都庁舎1階に移動

内浦庁舎1階にあった町民課が、4月1日から能都庁舎1階に移動しました。

今後は、住民基本台帳カード(住基カード)の交付事務、電子証明書の発行事務を能都庁舎町民課に統合します。申請は今までと変わらずに町民課、内浦サービス室、柳田サービス室、鶴川・小木支所、高倉出張所でもできますのでご利用ください。

- ・町民課(能都庁舎1階) ☎ 62-8500

閉庁日の能登有料道路通行券の販売変更

これまで閉庁日に限り消防柳田分署・内浦分署で販売していた能登有料道路の通行券の取り扱いを、4月1日から能都庁舎に一本化しました。

ご不便をおかけしますが、閉庁日での能登有料道路通行券の購入は能都庁舎までお越しください。

お知らせ 子ども手当

子ども手当は平成22年6月に支給予定

健康福祉課児童福祉係 ☎ 72-2512

中学校修了までの児童・生徒を対象に、一人につき月額13,000円支給される予定です。「子ども手当」についての詳細は、広報5月号に掲載します。

